

I 指導事例

小学校国語

平成23年度

平成24年度

課題1 場面の移り変わりや情景の想像

県の通過率 57.5% → 67.2%

問題 三 三

<経年比較>

年度	通過率(%)
平成23年度	57.5
平成22年度	79.1
平成21年度	45.2
平成20年度	44.2
平成19年度	47.7

※平成19～21年度は、「適切な語の選択」で出題している。

この設問は、継続的に登場人物の心情の変化を捉える力に課題がみられるため、出題した問題である。(平成22年度は、登場人物の「うれしかった理由」を問う問題で通過率が上昇したが、昨年度、登場人物の気持ちの変化の理由を問う設問にしたところ、通過率が下がった。)

これまでの誤答の状況から、物語のおおまかな展開を捉え、根拠となる表現を基に気持ちの変化を想像することに課題がある。

誤答と無解答		割合 (%)
1	やってみたいと思ったから 料理したいと思ったから	5.4
2	上記以外の解答	24.7
3	無解答	2.7

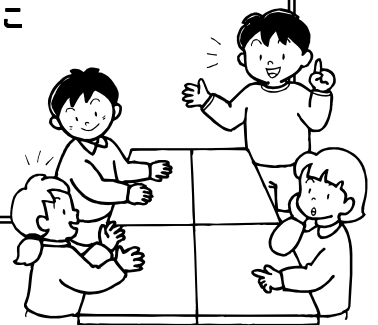
誤答1・2

根拠となる表現を基に、やってみたいと思った主人公の気持ちを想像することができていない。 【30.1%】

やってみたくてたまらなくなりました。とありますが、あやが、このように思ったのはなぜでしょうか。□の中に書きましょう。

※ 資料編 参照
安江生代 「海からの手紙」による。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。



昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

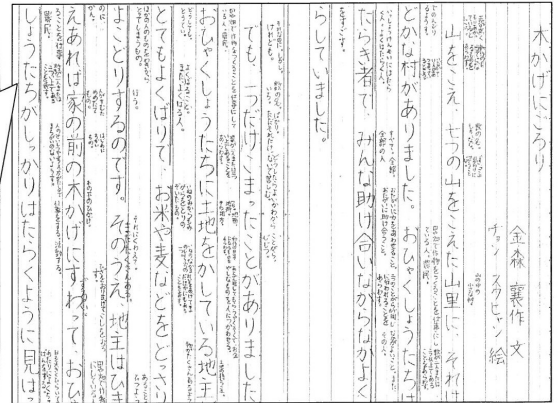
- 物語のおおまかな展開を捉えさせた上で、登場人物の性格、行動、会話、他の人物との関係や情景描写等、根拠となる表現を基に、気持ちを想像させましょう。
- 物語の中で主人公の気持ちが大きく転換したところはどこか、また、それはなぜかを考えさせましょう。
- 登場人物の気持ちの変化について、自分の考えと根拠となる表現を書かせ、交流させましょう。

<事例紹介> 東広島市立御園宇小学校

ポイント

- まず教材文を視写させ、書き込みをさせることを通して、物語の全体像をつかませるとともに、内容をしっかり理解させる。
- 根拠となる表現をノートに書き出して登場人物の気持ちを想像させる。
- 交流の中で新たに考えたことや友だちの発言をノートにメモさせる。
- 学校全体で、読みを深めるためのノート指導に取り組む。

【3年 視写ノート例】



新しいところを学習するときには、教材文を視写すると内容がつかみやすくなります。一行ずつ開けておくときき込みやすくなります。

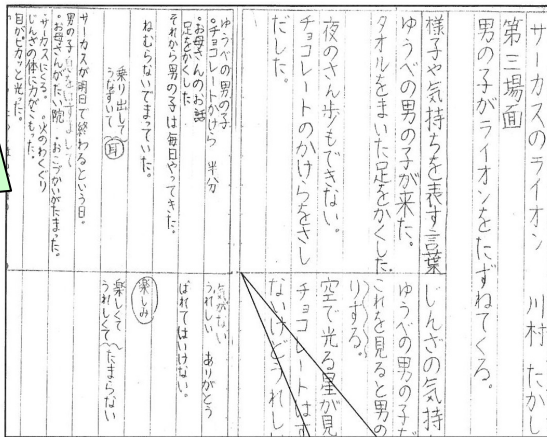
まず教材文を視写させ、登場人物の行動や会話、情景描写を中心に想像したことを書き込ませています。



はじめに、授業の中で、ノートの取り方や一人読み学習の方法、内容をじっくり指導することで、家庭学習での予習につなげています。

根拠となる表現を上段に書かせ、下段には、想像した登場人物の気持ちを書かせています。

【3年 ノート例】



交流を通して新たに気付いた表現や気持ちを書き加えています。



自分の考えをノートにどんどん書き溜めていくことで、考えが深まっていきます。

このような学習に全学年で取り組むことで、初めて読む文章でも、大事な叙述に線を引いたり、キーワードに丸を付けたりしながら読む習慣が付きます。そして「読むこと」の力が高まっています。

ページを2段に分けて、上には読み深めに必要なところ、下には自分の考えや思いを書きます。

- ◆ この事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。
 - 根拠となる表現を基に想像したことをペアやグループで交流し考えを深め合う場を取り入れている。
 - 教材文以外の文章を取り上げ、文章全体から根拠となる言葉を抜き出し、登場人物の心情を想像させる活動を繰り返し行う。
 - 「お気に入りの物語をリーフレットに書いて紹介する」という単元を貫く言語活動を設定し、リーフレットに書く内容の1つに「心情の変化」を書く部分を位置付ける。その部分には、自分の心に残る登場人物の気持ちの変化について、「変化する前」「変化した後」「変化のきっかけ」を根拠となる表現を基に想像したことを書かせる。

